

International Centre for Heat and Mass Transfer (ICHMT)

- その最近の活動報告と会員各位へのお願い -

International Centre for Heat and Mass Transfer (ICHMT)

- Its History, Role and Recent Activities -

鈴木 健二郎 (芝浦工業大学)

Kenjiro SUZUKI (Shibaura Institute of Technology)

標題にある ICHMT についての記事は、Centre の会長 (President) を務められた森康夫先生 (東京工業大学名誉教授) が、当時の学会 (研究会) 誌「伝熱研究」の 24 巻 (1985 年) と 26 巻 (1987 年) に、また越後亮三先生 (東京工業大学名誉教授) が 29 巻 (1990 年) に寄稿されて以来のことのようです。本年 6 月に開催された理事会 (EC: Executive Committee) で私が EC の Vice Chairman に選出され、一年後からの 2 年間 Chairman として微力を尽くす必要が生じました。当人である私自身が、晴天の霹靂で戸惑っているところですが、本誌の編集委員である京都大学吉田英生教授より、お誘いがありましたので、この機会に Centre の最近の活動をご報告し、会員の皆様のご協力、ご支援をお願いしたいと考えて、この一文を書かせて頂いています。

センターの設立の経緯については、森康夫先生が述べられていますので、詳しくは先生の記事に譲るとして、ごく簡単に述べれば次のようであったとされています。1960 年当時、東 (旧ソ連邦を盟主とした共産圏) と西の間に横たわる壁は高く、学术交流もままならない状態でありましたが、米国 J. P. Hartnett 教授などの努力で伝熱分野における純粋学術的な交流を促進するために、学術誌 (International Journal of Heat and Mass Transfer) と国際会議 (International Heat Transfer Conference) と併せて設立されたものです。その後、時間の経過とともに UNESCO 活動の一端を担う性格も持つこととなり、開発途上にある国々の伝熱学・伝熱工学分野の研究・教育活動を支援する目的も付け加えられました。設立当初より事務局は Beograd にある Boris Kidrich Institute of Nuclear Sciences に置かれていましたが、事務局を東西間の中立的地域に置く必要性が低下したことに加えて、ユーゴスラヴィアの内戦が長期化したことに伴って Centre の活動維持が困難となり、1993 年以

来トルコの Ankara にある Middle East Technical University (METU) に置かれています。事務局の移動については、森康夫先生が会長として舵取りに大きな役割を果たされたと聞き及びます。

センターの目的は、EC の中で 2 年前から再検討が行われ、憲章として

ICHMT provides a unique apolitical forum for the world's leading heat and mass transfer scientists and engineers. This mission of ICHMT is to pursue excellence and foster the international exchange of science and engineering in all branches of heat and mass transfer through symposia, publications, promotion of research and exchange of personnel for the benefit of people everywhere.

が決められました。この目的に沿って、シンポジウムの主催ならびに共催、Luikov Medal および Fellowship Award の選考・授与、出版活動、国際交流活動、若手研究者および経済的困難度の高い国の研究者への会議出席支援などを行っています。Luikov Medal は 1979 年以来 12 名 (日本からは森康夫先生 1 名) に、Fellowship Award は 1980 年以来、32 名 (日本からは中山恒先生と私の 2 名) に授与されています。

センターの顔は President であり、現在はイタリアの M. Cumo 教授が、その任にあります。また、日常的な連絡等の事務は事務局長 (Secretary-General) が行っていますが、6 月に METU の Faruk Arinc 教授が再選され、向こう 3 年間任務を継続することになりました。Centre の活動方針は全て、毎年 2 回開催される EC で決定されます。会長と EC メンバー 15 名は Scientific Council の投票で決定されますが、現在の Scientific Council は、32 国・地域、1 機関 (UNESCO) から出た 142 名により構

成されています。我が国からのメンバーは
藤田 恭伸, 笠木 伸英, 河村 洋,
森 康夫, 長野 靖尚, 中山 恒,
荻野 文丸, 庄司 正弘, 鈴木 健二郎,
棚沢 一郎 (以上敬称略)

の10名です。ちなみに, ECのVice Chairman (したがって1年後のChairman) はECの中の互選で決まります。

Centreは, 東西の壁が崩れて以来, 当初の目的から上に掲げた新しい目的を果たす非政治的な学術組織として衣替えをし, 更なる展開を図ろうとしています。開発途上国や経済的困窮国の活動支援を行う一方で, バイオテクノロジー, ナノテクノロジー, 環境エネルギーなどの新しい分野の伝熱活動を推進することとし, 鋭意活動を展開しています。前回の国際伝熱会議では, 国内論文委員

会委員長の庄司正弘先生の報告にありましたように, 我が国の論文数は米国と並びました。International Journal of Heat and Mass Transferへの投稿論文数は, 日本のEditor Office (Editor: 鈴木健二郎, Assoc. Editor: 西尾茂文教授) の取り扱い論文数は米国Editorに次ぐ2位であります。他の活動分野と同じように, 学術活動の分野においても, 国際活動に果たす日本の役割への期待が高まっています。日本伝熱学会ならびに学会会員の皆様には, 是非Centreへの一層のご支援をお願いしたいと思いますし, また, センターの活動を踏み台にして, 皆様が一層の国際的活動を展開して下さることを期待したいと存じます。

どうか, 宜しく願います。

(ICHMTのホームページ <http://www.ichmt.org/>)